

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二二(令和四)年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅰ期〈一日目〉

二〇二二年二月四日(金)実施

国語

Ⅰ 注意事項

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから17ページまであります。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

Ⅱ 解答上の注意

解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。

マーク式の問題で、「解答はマーク式解答用紙 10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の

例のようにマークしてください。記述式の問題には「解答は 記述式解答用紙」と表示がありますので、記述式の

解答用紙に記入してください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。

食べるという行為において、その対象となる「食べ物」は身体外部のものであり、自分の体にとっては「異物」となる。食べるという行為は、異物を身体内部に取り込むことである。口から食道、胃、小腸、大腸、肛門という消化にかかわる①ゾウキを一連の管とするなら、人間のからだは一本の管となる。食べた物は、管を通過していくにしたがい、一部は消化吸収され、残渣は排泄物となる。

食べ物は、はたして自分の身体の一部なのだろうか、それとも一部ではないのだろうか。食べるという行為を通して、身体と食べ物との関係はきわめて②境界性を帯びたものとなる。身体を食べ物が通過するとき、身体が境界性を帯びるならば、「食べる」という行為は、「境界侵犯」と呼べるようなとても危険な行為となる。

食べるという危険な行為には、いつの時代にも、どの社会にも、危険を回避するための文化的な規制として、食物禁忌や食の作法(マナー、エチケット)がともなっている。そして、食の規制は、「いつ、どこで、だれと、何を、いかに」食べるかという複数の状況が組み合わさってできる文脈、いわば「食行為の文脈」によって構成されているのである。

「いつ」食べるかということに関して、ふだんの食事と盆や暮れ、正月、記念日や誕生日のそれとでは文脈が違ふし、食べ物の種類や一緒に食べる人も異なってくる。「どこで」は、家庭で食べるのと、学校や親戚の家、レストランで食べる場合では、食べる状況が異なっている。「だれと」というのも、家族と食べる、友人と食べる、上司や先生と食べる場合で、かなり状況が異なってくる。「何を」食べるかは、「食べてはいけないもの」として文化が規定する食物禁忌がある。他にも、行事によって決められている食べ物や、栄養学による規制もある。「いかに」とは、栽培法や採取法から調理法、セッティング、身分や年齢に合わせた席順、作法やマナーに至る規制のことである。

ところが、健康やダイエットに関心を抱いている現代人にとって、「食べる」ことの規制として思い浮かべるのは、おそらく③栄養学的なカロリーのことだろう。「食べる」という行為が文化的な④シヨサンであるとすれば、栄養学の「何を、どれだけ食べるか」という規制は、食規制を構成する複数の条件のうちの一つに過ぎないといえる。

「食行為の文脈」に関して、臨床哲学者の鷺田清一は、著書『悲鳴をあげる身体』の中で、摂食障害を引き起こす要因の一つとして、『段取り』を失った食事』をあげている。⑤「段取りを失う」とは、いったいどういうことなのだろうか。鷺田の説明は短いので、先の食行為の文脈から解読してみよう。

□「食べる」ためには、段取り(食行為の文脈)が必要である。だれかと一緒に食事をする場合、「いつ、どこで、だれと、何を、いかに」食べるかという

食行為の文脈が大きく影響する。

☐ 相手がいれば、食べる時間の調整というだけではなく、どのくらいの時間をかけて食べるかということも重要となる。相手のペースを無視して、5分で食べ切るとか、反対にだらだらと食べ続けるということではできない。食べる場所も、相手の意向を無視して決めることはできない。食べる相手も、家族、友人、上司では、食事の内容や^③フレイキが全く違ってくる。何を食べるかも、自分の好物だけを主張することはできない。食べる量も、勝手に好きなだけ食べてよいわけではなく、相手とのバランスがある。それに、買い物から調理、セッティング、そして後片付けまで、自分の都合だけでできることではない。こうした「だれかと食べる」という共食にもなる「段取り」があることで、食べ過ぎず、食べなさ過ぎず、ほどよくバランスの取れた食行為が保たれるのである。『段取り』を失った食事」とは、暴飲、暴食、欠食、拒食など、外からの規制のない無秩序な食行為のことである。

☐ また、「食べる」という行為は、本来「共食」を前提としている。このことは、世界各地の食慣行について調査してきた文化人類学では早くから指摘されてきた。共食という行為を通して、自分が所属する集団への帰属意識を強めたり、連帯感や一体感をもたせることで、^④集団内の絆を強化する機能があるというわけだ。敵対する隣接集団との緊張を緩めたり、敵対を防いだりするために、定期的に宴会を開催する。つまり、共食という行為を通じて、集団間の緊張を緩和、もしくは調停しているのである。

☐ 「同じ釜の飯を食う」という言葉がある。同じ釜の飯を食った仲間とは、深い絆で結ばれた特別な関係にあるという意味である。また、^⑤カンコンソウサイ、年中行事に飲食の行為は付きものである。そうした場に参加して、勧められるままに飲んだり食べたことはないだろう。しかし、そこには親戚関係の絆を確認したり、疎遠になっていた関係を再び結び直すという機能がある。また、日本のサラリーマンのアフターファイブでの付き合いは、欧米では評判がよくないが、サラリーマンにしてみれば、一日のストレスを発散するだけでなく、飲み食いしながら情報を交換し、関係性を確認し合っているのである。疎遠になっていく友人と久しぶりに会食をしてみればわかる。なんとなくはじめはあつたぎこちなさも、一緒に食べることや会話を交わすことで、いつの間にか薄らいでくる。

☐ ところで、現代の日本社会では、家族で別々のメニューを食べる個食や、家族がいても一人で食べる孤食が増えている。これは、子どもの塾通い、大人の長時間勤務など、現代の生活スタイルの変化が一因であるといわれている。孤食や個食の場合、だれからも何もいわれないまま、何を、どれだけ、いつ食べても自由である。ところが、「食事はみんなで食べるもの」という価値観の中で育ったアフリカの青年には、個食や孤食という日本の状況は、きわめて異常な現象として見えてくる。共食を前提とするアーカイック^⑥な社会では、一人で食事をすることは、社会的規範からの^⑦イツダツ行為として疑われるだけでなく、社会にとつてきわめて危険な行為と見なされている。

以上のように、「食べる」という行為は、身体とその身体を通過する食べ物との関係から「境界侵犯」として捉えることができる。食べるという行為はきわめて危険なため、どの社会でも作法やマナー、ときに食物禁忌さえもともなうのである。そうした食行為にかかわる文化的規制は、境界領域に生じる危険を回避するためにある。ただし、(エ)境界の両義性という観点からみれば、食行為には危険だけではなく、創造性や変革可能性も秘めている。その一つが、食行為の前提となる共食にともなう個人と個人、集団と集団との関係を結び直す機能である。

(浮ヶ谷幸代『身体と境界の人類学』による。一部改変。)

(注) アーカイック — archaic (英) 「古代の」、「歴史の」初期の、「古風の、古めかしい」の意。

問1 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に改めよ。解答は記述式解答用紙。

- ① ゾウキ ② シヨサン ③ フンイキ ④ カンコンソウサイ ⑤ イツダツ

問2 傍線部(ア)「境界性を帯びたものとなる」とあるが、その説明をわかりやすくまとめたものが次の文章である。文中の空欄A～Dに入る最も適当な語句を、本文の中から抜き出して記入せよ。ただし、同じ記号の空欄には同じ語句が入る。解答は記述式解答用紙。

身体にとって食べ物はAのものであり、Bであるが、食べるという行為によってBを身体のCに取り込むことになり、食べ物は身体
のAと身体のCのDを有することになる。

問3 傍線部(イ)「栄養学的なカロリー」とあるが、これと共通する「食の規制」の例を次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙1。

- ① 家庭での食事 ② 上司や先生との食事 ③ 作法やマナー ④ 料理の調理法 ⑤ アレルギーの食物禁忌

問4 傍線部(ウ)「段取りを失う」とは、いったいどういうことなのだろうか」とあるが、その問いの答えとして適当と思われる語句を、本文の中から19字で抜き出せ。解答は記述式解答用紙。

問5 本文全体を「起―承―転―結」の論理的な四段構成として捉えた場合、第三段目の「転」に当たる段落を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 2。

- ① ㊦ ② ㊧ ③ ㊨ ④ ㊩ ⑤ ㊪

問6 本文全体を踏まえて、本文の内容の説明として適当ではないと思われるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 3。

- ① 「食べ物」は身体外部の「異物」であり、「食べる」という行為は、異物を身体内部に取り込むことであるから、身体と食べ物との関係はきわめて境界性を帯びたものとなり、「境界侵犯」と呼べるようなとても危険な行為となる。
- ② 「食べる」という行為の危険を回避するための食の規制は、「いつ、どこで、だれと、何を、いかに」食べるかという複数の条件が組み合わさってできる「食行為の文脈」によって構成されている。
- ③ だれかと一緒に食事をする場合、「いつ、どこで、だれと、何を、いかに」食べるかという食行為の文脈が大きく影響し、共食にともなう「段取り」があることで、ほどよくバランスの取れた食行為が保たれることになる。
- ④ 現代の日本社会では何を、どれだけ、いつ食べても自由であるが、現代の生活スタイルの変化が一因で、家族で別々のメニューを食べる個食や、家族がいても一人で食べる孤食が増えているのは、栄養学的にきわめて異常な現象である。
- ⑤ 「食べる」という行為においては境界領域に生じる危険を回避するため、どの社会でも作法やマナー、ときに食物禁忌さえもともなうが、そういった文化的規制には、例えば共食にともなう個人と個人、集団と集団との関係結び直すといった機能もある。

問7 傍線部(エ)「境界の両義性」とあるが、この「両義性」について、本文全体を踏まえながら、次の[]に入る適切な文章を50字以内で答えることで説明せよ。(ただし、句読点も一字に含む。) 解答は記述式解答用紙。

食べるという行為は、身体と食べ物との関係から「境界侵犯」として捉えれば危険ではあるが、

[]

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜4)に答えよ。

両親、祖父母に死に別れ、天涯孤独となったみかげは、同じ大学に通う雄一の家に取り取られた。雄一の家は、えり子さんと雄一の二人暮らしの家族だった。みかげは、雄一の家族と半年暮らしのあと、大学をやめて料理研究家のアシスタントとして働き始めた。その後、えり子さんが突然亡くなり、雄一もひとりぼっちになってしまう。雄一は、えり子さんの仕事仲間のちかちゃんの勧めで、気分転換の旅に出る。みかげも、先生のお供で伊豆のホテルに泊まっている。一日の仕事を終えてカツ井店に入ったみかげは、ちかちゃんから聞いた宿に電話し、雄一を呼び出してもらおう。

「ああ、ちかちゃんはとうふ好きだから嬉々としてここを紹介してくれてさ、確かにすごくいい宿なんだ。窓が大きくて、滝みたいなのが見えて。でも、育ちざかりのぼくは今、カロリーが高くて、油っこいものが食いたいよ。……不思議だな。同じ夜空の下で今、二人ともおなかをすかしているんだからな。」

雄一は笑った。

ひどくバカげているけれど、私はその時、今からカツ井食べるんだ！ と自慢することがなぜかできなかった。なんでだか、この上ない裏切りのように思えてならなくて、雄一の頭の中では一緒に飢えていてやりたかった。

私のカンはその瞬間、ぞっとするほど冴えていた。私には手に取るようによくわかった。

二人の気持ちは死に囲まれた闇の中で、ゆるやかなカーブをびったり寄りそってまわっているところだった。しかし、ここを越したら別々の道に別れはじめてしまう。今、ここを過ぎてしまえば、二人は今度こそ永遠のフレンドになる。

間違いない、私は知っていた。

でも私はなすすべを知らない。それでもいいような気さえ、した。

「いつごろ帰るの？」

私は言った。

雄一はしばらく黙った後で、

「じぎだね。」

と言った。うそが下手な奴、と私は思った。きつとお金の続く限り、彼は逃亡する。そして、この間えり子さんの死の知らせを延ばし延ばしにしたのと同じ気まずさを勝手に背おって私に連絡できなくなる。それが彼の性格だ。

「じゃあ、またね。」

私は言った。

「うん、また。」

彼もきつと、なぜ逃げたいのかさえ自分でもわからないのだろう。

「手首切ったりしないいでね。」

私は笑って言った。

「けっ。」

と笑って雄一はじゃ、と電話を切った。

とたん、ものすごい脱力感がおそってきた。受話器を置いてからずっとそのまま、店のガラス戸をじっと見つめて、風に揺れる外の音をぼんやり聞いている。道ゆく人が寒い寒い、と言いつづけるのが聞こえた。夜は今日も世界中に等しくやってきて、過ぎてゆく。触れ合うことのない深い孤独の底で、今度こそ、ついに本当のひとりになる。

人は状況や外からの力に屈するんじゃない、①内から負けがこんでくるんだわ。と心の底から私は思った。この無力感、今、まさに目の前で終わらせたくないなにかが終わろうとしているのに、少しもあせったり悲しくなったりできない。どんよりと暗いだけだ。

どうか、もっと明るい光や花のあるところでゆつくりと考えさせてほしいと思う。でも、その時はきつともう遅い。

やがてカツ丼がきた。

私は気をとり直して箸を割った。腹がへっては……、と思うことにしたのだ。外観も異様においしそうだったが、食べてみると、これはすごい。すごいおいしさだった。

「おじさん、これおいしいですね！」

思わず大声で私が言うと、

「そうだよ。」

とおじさんは得意そうに笑った。

いかに飢えていたとはいえ、私はプロだ。このカツ井はほとんどめぐりあい、と言つてもいいような腕前だと思った。カツの肉の質といい、だしの味といい、玉子と玉ねぎの煮え具合といい、固めにたいたごはんの米といい、非の打ちどころがない。そういうえば昼間先生が、本当は使いたかったのよね、とこのうわさをしていたのを思い出して、私は運がいいと思った。ああ、雄一がここにいたら、と思った瞬間に私は衝動で言ってしまった。

「おじさん、これ持ちかえりできる？ もうひとつ、作ってくれませんか。」

そして、店を出た私は、真夜中近くに満腹で、カツ井のまだ熱いみやげ用パックを持ちとほうにくれてひとり道に立ちつくすはめになってしまった。本当に私は何を考えていたんでしょう、どうしよう……と思つている目の前に、タクシー待ちと勘ちがいしてすべりこんできた空車の赤い文字を見た時、決心した。

タクシーに乗りこんで告げた。

「I市まで行つてもらえますか。」

「I市——？」すつとんきような声で言つて運転手が私を振り向いた。「俺はありがたいけど、遠いし、高くつくよ？ お客さん。」

「ええ、ちよつと急用でね。」私は王太子の前に出たジャンヌ・ダルクのように堂々としていた。これなら信用されると自分でも思えた。「そして着いたら、とりあえずそこまでの分をお支払いますから。二十分くらい向こうで用がすむまで待つてもらつて、またここまで折り返してほしいんです。」

「色恋ざただね。」

彼は笑った。

「まあ、そんなところですね。」

(E) 私も苦笑した。

「よし、行きましょう。」

タクシーは夜の中を、I市に向かって走り出した。私と、カツ井を乗せて。

(吉本ばなな『満月——キッチン2』による。)

問1 傍線部(ア)「雄一の頭の中では一緒に飢えていてやりたかった」と、みかげが思った理由は何か。次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 4。

- ① 二人が別々の道を歩き出さなければならぬ時が近づいていることを、雄一に悟らせたくなかったから。
- ② 雄一を孤独にさせないために、彼が勝手に思いこんでいる自分との連帯感をそのままにしておきたかったから。
- ③ 本当のことを言うと、羨ましがって雄一が会いたがる可能性があり、彼の自立の邪魔をしたくなかったから。
- ④ 雄一に、カツ丼を食べることを自慢することで、彼の空腹感を不必要に刺激したくなかったから。
- ⑤ 雄一が風情のある和風旅館に泊まっているのに、カツ丼の話をして高級なムードを壊したくなかったから。

問2 傍線部(イ)「内から負けがこんでくる」とは、どういうことか。句読点とも40字以内で書け。解答は記述式解答用紙。

問3 傍線部(ウ)「めぐりあい」とあるが、ここでの「めぐりあい」と同じ意味となる語を次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 5。

- ① 遭遇
- ② 奇跡
- ③ 達人
- ④ 逢着ほうちやく
- ⑤ 因縁

問4 傍線部(エ)「私も苦笑した」とあるが、ここでみかげが苦笑した理由について、次の①～⑤のうちから最も適当なものを一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 6。

- ① ずっと秘めていた思いを、意外にも運転手に一目で見破られてしまったため、今まで必死に隠し続けていた過去の自分の努力が、あまりにも馬鹿々々しい徒労に思えたから。
- ② ただ友人においしいかつ丼を届けてあげるだけなのに、それを「色恋ざた」と言われたが、詳しく事情を説明するのも面倒なので、「色恋」に一途な女を演じようと思ったから。
- ③ 食によって人間的な絆を深める共食の文化的な意味を理解できず、自分の常識の範囲だけで「色恋ざた」と決めつける運転手の偏狭さに、あきれて笑うしかない気持ちになったから。
- ④ ジャンヌ・ダルクのようだと自分では思っているのに、「色恋ざた」の末に理性を失った女のように見られたことが残念でならず、その落胆を笑いどころかそうとしたから。
- ⑤ 思い詰めた真剣な行為を、「色恋ざた」というありきたりな俗っぽい言葉で言われ、そう言えばそういう要素もない訳ではないと、自分のことながら滑稽に思えたから。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

【大学】 文学科（英米文学専攻・心理学専攻）

教育学科

経済学科

経営学科

経済情報学科

芸術学科

スポーツ科学科

栄養学科

【短大】 現代教養学科

食物栄養学科

幼児教育学科

【大学】 文学科（日本文学専攻・歴史学専攻）の受験者は、第4問【古文】を解答しなさい。

（15ページ～17ページ）

上記学科・専攻の受験者は、第3問を解答しなさい。

（12ページ～14ページ）

第3問 次の文章を読んで、後の問い(問1、2)に答えよ。

話者が、対話の相手の立場から、自分あるいは第三者を規定する方式は、何も日本語にだけ見られる現象ではない。また家族の内部で、年長の者が年下の者の立場から人間関係を言語的にとらえて行くやり方、いわゆる子供中心主義も、たとえば現代トルコ語などに見られるものである。しかし、詳しく調べて行くと日本語のしくみは、一見子供中心主義に見えるが、実はむしろ家中心主義として理解すべきものであることが明らかになってくる。具体的にトルコ語の例と比較しながら説明してみよう。トルコの社会でも家族内で目上と目下が対話するときは、一貫して目上は目下の立場から自分及び第三者を言語的にとらえる。

たとえばおじと姪めいが対話するような場合、おじは自分を *anca* 「おじ」と称する。また父親が子どもに向かって、自分の妻、つまり子供の母のことを言うときは、*anne* 「母」と言う。父親が子供に向かって、自分自身の父、つまり子供にとっての祖父のことを話題にする際には、*dede* 「祖父」という言葉をつかう。このように目上である話者が、目下である相手に向かって話をするときは、常に相手(目下)の立場から、自分または第三者を把握するようになっていく。これに反し、目下の者が、目上の者に向かって話をするときは、いつでも自分自身の立場から直接その対象を言語的にとらえる。これだけ見ると、日本語の場合と全く同じで、トルコ語の場合も相手のとらえ方は子供中心だと言えよう。しかし実は重大な相違が両者の間にはあるのである。トルコ語では目上が目下に向かって使う用語に、必ず相手の立場から見てのことだということを示す接尾辞(注1)がつけられるのである。

さきの例で言えば、おじが姪に向かって、自分をおじと称するときは、必ず *ancam* つまり「お前のおじ」と自称する。父が子供に対し、自分自身の父を「祖父」と称する場合は、*dedem* 「お前の祖父」と言う。つまり子供の立場に立って人間関係を見てはやるが、対象をこのように把握することは、相手の見地から行っているのだということを言語上明示するのである。したがって、このような表現に用いられる親族用語(注2)は、その使われ方に全く矛盾がない。これに反し日本語で、母親が子に向かって、自分の夫を「パパ」「おとうちゃん」などと言うことは、本来の用語の意味からすれば、母親自身の父、つまり子供の祖父のことになってしまう恐れが理論的にはあるわけである。だからと言って、家の中で、母親が子供に向かって「一々「あなたのパパはどこ。」とか「おまえのおとうちゃんおせいね。」などは決して言わないし、また言うことは出来ないのである。

元来親族用語は、その性質上ラッセル(注3)などが言う自己中心語(*egocentric terms*)に属する。ある話者が「父」と言い「母」と称する人は、その人にとってのみ父であり、その人から見てのみ母と呼ばれることが出来る対象であって、他人から見れば父でも母でもあり得ない。ある特定の話者を定めた時、初めてその内容が決定されるような語が、自己中心語とよばれるものである。ある人が自分以外の父や母を言うときは「誰々の父」のように修飾することに

よって、「父」や「母」といった自己中心語の原点が、話者のものでなく、その「誰それ」のものだということを示すわけである。このような自己中心語の原点移動が、例外なく守られているのが、前述のトルコ語の用法である。トルコ語では、親族用語は、その自己中心性を失うことなく用いられているとすることが出来る。日本語のさきの例では、この原点移動が明示されていないのである。これは、ただ家族内のみ止まらず、学校の先生や医者が、子供の母親に対して、ただ「お母さん」と呼びかける場合にも同じく見られるものである。「お母さん」と呼ばれた女性は、決して先生や医者のお母さんではない。原点の移動が明示されていないのである。

本来の親族用語は、自己中心語である性質上、相対的なものである。ところがさきの日本語の例においては、父や母のような親族語は、その相対性を失って、実は絶対的な語、つまり固有名詞として機能していると考えられることである。一軒の家には、父、母、祖父、祖母などと呼ばれる地位がある。その地位を占める者の名が「おかあさん」であり「おとうさん」なのだ日本人は受け取っているのである。だから夫が妻を「おかあちゃん」と呼んでも不思議ではないし、一家の祖母に当たる人が自分の息子である者を「おとうさん」「パパ」などと呼ぶこともあり得るのである。このような場合、用いられる親族語はもはや「私の」とか「子供の」という原点を失った、「うちのおとうさん」「うちのかあちゃん」という意味なのである。だからこそ、同一の女性が、夫から見ても、子供から見ても、どちらも「ママ」「かあちゃん」で不思議も矛盾もないのである。先生や医者も、生徒の母親を「お母さん」と呼べるのは、生徒及びその婦人を含む、家を考えて、その家の中で彼女が占める地位の名称として「お母さん」と言うのである。

このように考えてくると、我々日本人が、相手の名前や人称代名詞を使う代わりに、親族用語を非常に多くの場合に使うということは、相手を一個の個人とは見ないで、親族(家)という一つのハイアラキイ(秩序階層)を背後に背負った存在と考え、その体系内の位置付けを言語的に行うことで相手を定位すると考えることが出来る。家庭外で、相手を先生とか、課長と呼び、名前や人称代名詞をなるべく使わないのも、その場に応じたハイアラキイを設定し、その中での位置付けをすることで相手を把握するものと言えよう。しかもこのような言語的的定位が、目上に対してのみ行われて、目下は、家庭内でもまた家庭外でも、代名詞か名前を用いて呼ぶことが出来ることは、人間関係が一般的に言って上下の縦軸に分極し、上には極度の敬意を示す必要があることを示しているのである。そして日本人によるこのような自己定位は、いま述べたような相手を規定し終えた後ではじめて可能になる。人は、自分の家族をはじめとし、職場、社交、その他いくつかのハイアラキイに属しているものである。これらは永続的な性質のものもあれば、著しく短い時間しか存在しないものもある。しかしいずれにせよ、相手を自分との関係で位置付けてしまわない限りは、どのような言葉を選んで用いたらよいか決定出来ない。

(鈴木孝夫『ことばと社会』による。一部改変。)

(注) 1 接尾辞——語を構成する要素の一つ。単独では用いられず、常に他の語の後に付く。

2 親族用語——父母や兄弟姉妹などの親族に対して用いられる呼称。

3 ラッセル——バートランド・ラッセル (Bertrand Russell)。イギリスの哲学者。

問1 次の文章は本文の内容をまとめたものである。文中の空欄 A、B、C、D、E に入れるのに最も適当な語句を、本文中から抜き出して書け。ただし、同じ記号の空欄には同じ語句が入る。解答は記述式解答用紙。

話者が親族を呼ぶ際の語は自己中心語である。しかし日本語の場合、「父」「母」などの親族用語は、A の中でその人が占める地位を表す B として働いている。すなわち日本人は、相手を個人と見るのではなく親族という一つの C 中の存在にとらえ、その体系の中の位置付けを D に行うことで相手の位置を定める。しかも、日本人の人間関係は上下の軸に分極しており、目上には極度の敬意を示す必要がある。そして、こうしたなかで相手を規定したとき初めて、E もできることになる。自分と相手を含む C 中の相手と自分の関係から、D に自己を把握するのである。

問2 傍線部「本来の親族用語は、自己中心語である性質上、相対的なものである。」とあるが、「本来の親族用語」が「相対的」であるとはどのようなことか。句読点とも35字以内で述べよ。解答は記述式解答用紙。

第4問【古文】 次の文章は『唐物語』の一節である。男には長年連れ添った女がいたが、暮らしは貧しかった。男の反対も聞き入れず、妻は離縁を切り出

し、家を出て行ってしまふ。以下はそれに続く場面である。これを読んで、後の問い(問1～3)に答えよ。

夫、恋ひ悲しめども、いふかひなくて次の年にも(ア)なりぬるに、この人の才学、世にすぐれたることを帝聞か(ト)せ給ひて、その国の守(注1)になされぬ。初めて国に下りけるありさま、心言葉も及ばずめでたかり(イ)けり。かかれども、なほあり(エ)し妻のことを心にかけて、ひと国のうちを尋ね求めさすれど、似たる人なくて明かし暮らす。園に出でて狩りしあそびける時、事も(ウ)なのめならず、あやしくわびしげなる賤の女が、筐(注2)といふ物をひちに掛けて、菜を摘みてゐざり歩くを、「ゆゆしげなる者の姿かな」と見るほどに、我が昔のともに見なしてけり。なほ、ひが目にやと目をとめて見けるに、いかにもたがふ所なかりければ、人知れず悲しくおぼえて、暮るるや遅きと呼びとりてけり(注3)。女、「我、あやまつ事もなきに、(イ)いかなる事にあたりなんずるにか」と、恐れまどひけれど、ありし昔の事などをこまやかに語らひければ、女、(エ)あさましくおぼえて、この夫をうち見るより、いかが思ひけん、いたく悩みわづらひて、暁がたに絶え入りにけり。

(エ) もろともに錦を着てや帰らましうきに耐へたる心なりせば

心短かきは、何事につけても恨みを残さずといふことなし。「錦を着て故郷に帰る」といふ、この人のことなり。

(注) 1 国の守——国司の長官。

2 筐——竹でできたかご。

3 暮るるや遅きと呼びとりてけり——日が暮れるとすぐに呼び寄せた。

問1 二重傍線部(a)～(e)の文法的説明として正しいものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 7。

- ① (a) 「なり」は断定の助動詞の連用形である。
- ② (b) 「せ」は尊敬の助動詞の連用形である。
- ③ (c) 「ぬ」は打消の助動詞の終止形である。
- ④ (d) 「けり」は形容詞の一部である。
- ⑤ (e) 「し」は動詞の連用形である。

問2 傍線部(ア)「なのめならず」、(イ)「いかなる事にあたりなんずるにか」、(ウ)「あさましく」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答はマーク式解答用紙、ア 8、イ 9、ウ 10。

(ア) 「なのめならず」

- ① 曲がっておらず
- ② 頼りなく
- ③ うさんくさく
- ④ 情けなく
- ⑤ 普通でなく

(イ) 「いかなる事にあたりなんずるにか」

- ① どれだけ文句を言われるだろうか
- ② どんな処罰を受けるのだろうか
- ③ どれほど恨みを買っているだろうか
- ④ 八つ当たりされるのではないか
- ⑤ どんな事件にまきこまれたのだろうか

(ウ)「あさましく」

- ① うれしく
- ② あつかましく
- ③ みすぼらしく
- ④ 信じがたく
- ⑤ いやしく

問3 傍線部(エ)「もろともに錦を着てや帰らまし」とあるが、ここから読み取れる男の心情はどのようなものか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答はマーク式解答用紙 11。

- ① 貧しい暮らしに耐えかねて家を出て行った妻と再会することができ、ともに故郷に帰ることができるのを喜んでいる。
- ② 長い間探した妻がすっかり落ちぶれていて、かつての面影はなく、幸せにしてやれなかったことを申し訳なく思っている。
- ③ 妻が自分との生活に我慢してくれていたなら、二人で裕福に暮らすことができたのに、と残念に思っている。
- ④ 妻に昔の思い出を語って聞かせると、罪悪感に苦しんだあげく、命を落としてしまい、思わぬ事態に呆然としている。
- ⑤ 他国に出稼ぎに行っていたら、裕福になって故郷に帰ることができたはずだと後悔している。

2022(令和4)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
 一般選抜 I 期 (1 日目/2022年2月4日実施)
 解答例【マーク式】

国語 【国語総合】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	5	4
	2	5	4
	3	4	7
第2問	4	2	7
	5	2	6
	6	5	7

国語 【国語総合+古文】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	5	4
	2	5	4
	3	4	7
第2問	4	2	7
	5	2	6
	6	5	7
第4問	7	2	3
	8	5	4
	9	2	4
	10	4	4
	11	3	5

記述式解答用紙 「国語」 国語総合【解答例】

志望学科	受験番号
学科	氏名
専攻	専攻

※専攻は「文学科」「教育学科」受験の場合に記入してください。

第1問

④	①
冠婚葬祭	臓器
⑤	②
逸脱	所産
	③
	雰囲気

各配点
3 2

問2

A	外部
B	異物
C	内部
D	両義性 〔境界性〕も可

配点
5

問4

外からの規制のない無秩序な食行為のこと

問7

可能性も秘めて	関係を結び直す機能などの、創造性や変革可	共食にもなう個人と個人、集団と集団との
---------	----------------------	---------------------

50
配点
8

第2問

問2

困難に立ち向かう気力がなくなる	自分自身が抱える孤独感や無力感によって、
-----------------	----------------------

40

第3問

問1

D	A
言語的	家 〔親族〕「家庭」も可
E	B
自己定位	固有名詞
	C
	ハイアラキイ 〔秩序階層〕も可

各配点
3 10

問2

が決定されるということ。	ある特定の話者を定め、初めてその内容
--------------	--------------------

35
配点
5

